

2006-2007 活動実績ダイジェスト

著者	滋賀医科大学企画調整室
発行年	2007-11
その他の言語のタイトル	ACTIVITY DIGEST 2006-2007
URL	http://hdl.handle.net/10422/2272



国立大学法人

滋賀医科大学

Shiga University of Medical Science
活動実績ダイジェスト
2006-2007

ACTIVITY DIGEST 2006-2007

地域に支えられ世界に挑戦する大学



- JR瀬田駅から「滋賀医大」行きバスにて約15分
「医大西門前」または「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を
今後の大学運営に活用したいと考えています。
お気づきの点等ございましたら
下記連絡先までお寄せ下さいますよう
よろしくお願いいたします。

滋賀医科大学 企画調整室

TEL 077-548-2011

E-mail hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp

住所 〒520-2192 大津市瀬田月輪町



発行/平成19年11月
編集/滋賀医科大学・企画調整室



<http://www.shiga-med.ac.jp/>

- 4**
- 入学宣誓式、大学院入学宣誓式
 - 附属病院玄関前へのバス乗り入れ開始
 - 健康創造科学研究会
(4/27、6/23、8/24、10/27、12/19、3/15 計6回開催)
- 5**
- 浜松医科大学との交流会
 - 解剖体納骨慰霊法要
- 6**
- 関連病院院長会議
- 7**
- 西日本医科学学生総合体育大会(医学科)
- 8**
- オープンキャンパス(医学科)
 - オープンキャンパス(看護学科)
 - 第1回全人的健康を考える市民・学生参加シンポジウムの開催(第2回:11/23)
- 9**
- バイオメディカル・イノベーションセンター開所式
 - 外国人留学生等の研修旅行
 - 京都薬科大学との教育研究協力に関する包括協定を締結
 - 滋賀バイオ産業推進機構平成18年度第2回研究技術交流会



4月 入学宣誓式



4月 附属病院玄関前へのバスの乗り入れ開始



5月 解剖体納骨慰霊法要



6月 関連病院院長会議



8月 オープンキャンパス



9月 バイオメディカル・イノベーションセンター開所式



9月 外国人留学生研修旅行



9月 京都薬科大学との包括協定締結

滋賀医科大学のこの1年



10月 若訪祭



12月 全国読書/読書キャンペーン(読書サンパ)



1月 国際交流の夕べ



1月 学外有識者会議



2月 保育所開設



2月 大津市と相互協力協定締結



2月 生体内透視下手術システム開発成果発表会



3月 卒業式

- 10**
- 附属病院の産科婦人科を母子診療科、女性診療科に分離
 - 解剖体慰霊式
 - 若訪祭(学園祭)

- 11**
- 研究動物慰霊式
 - 滋賀県との懇談会

- 12**
- 附属病院敷地内全面禁煙の実施
 - 全学フォーラムを開催
 - ベトナムのチョー・ライ病院と国際交流協定を締結

- 07 1**
- 留学生との交流会「国際交流の夕べ」
 - 学外有識者会議
 - ALS(筋萎縮性側索硬化症)に初のワクチンを開発(米科学アカデミー紀要電子版に発表)

- 2**
- 滋賀医科大学保育所を開設
 - 大津市と相互協力協定を締結(健康・福祉分野等で連携)
 - 個別学力試験(前期日程)
 - 「生体内透視下手術システム開発—リアルタイム三次元MR画像下手術—成果発表会」を開催

- 3**
- 「一湖国の医家—彦根藩河村家旧蔵書展」を滋賀県立図書館で開催
 - 「都市エリア畜産官連携促進事業(びわこ南都エリア)研究成果発表会」を開催
 - 学位授与式、卒業式
 - 医師・看護師・保健師・助産師国家試験合格発表
 - 一卒卒者の合格率はいずれも100%を達成(開学以来の快挙)—
 - 大学発ベンチャー企業「マイクロン滋賀」の起業



滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

教育理念

豊かな教養と高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、科学的探究心を有する医療人及び研究者を養成する。

教育目標

1. 基礎研究、問題解決型学習を通して、適切な判断力と考察する能力を養う。
2. 豊かな教養を身につけ、医療人としての高い倫理観を養う。
3. コミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践する協調性を培う。
4. 参加型臨床（臨地）実習を通して、基本的な臨床能力を習得する。
5. 国際交流に参加しうる幅広い視野と能力を身につける。

滋賀医科大学の使命

滋賀医科大学は、幅広い教養と医学及び看護学のそれぞれの領域に関する高い専門的知識及び技能を授けるとともに、確固たる倫理観を備え、有能にして旺盛な探究心を有する人材を育成することを目的とし、もって医学及び看護学の進歩、発展に寄与し、併せて社会の福祉に貢献することを使命とする。

滋賀医科大学学則第1条より抜粋

教育

EDUCATIONAL
ACTIVITIES

良医を育て、名医が羽ばたく

本学学生の努力ならびに関係教職員の支援により、国家試験合格率はいずれも目標数値を達成することができました。また、平成17年度から実施してきた「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」の各プロジェクトについて良好な成果を得ることができました。

学生1人ひとりにきめ細かなフォローアップ

新卒者の国家試験合格率100%

平成19年の国家試験において、本学の学生（新卒者）全員が見事合格を果たしました。新卒者の国家試験合格率が、全てにおいて100%を達成したのは開学以来の快挙です。既卒者を含めた医師国家試験合格率は、防衛医科大学校（100%）、東京大学（99.0%）、順天堂大学（98.9%）に次いで全国4位でした。

医師国家試験
合格率
全国4位

国家試験 区分	目標数値	合 格 率		
		平成17年	平成18年	平成19年
医 師	95%以上	96.4% (全国平均89.1%)	91.8% (全国平均90.0%)	97.1% (全国平均87.8%)
看護師	98%以上	100.0% (全国平均91.4%)	93.2% (全国平均88.3%)	98.4% (全国平均90.6%)
保健師	95%以上	92.6% (全国平均81.5%)	91.7% (全国平均78.1%)	100.0% (全国平均89.0%)
助産師	—	—	—	100.0% (全国平均94.3%)



国家試験対策 平成18年度新たな取組

医学科

- 後援アドバイザー制度を立ち上げ、第5及び第6学年の成績下位の学生に対して個々に教鞭を振り当て指導しました。
- 例年より補講の内容を充実させ、48時間（前年度比+35時間）実施しました。

看護学科

- 第4学年担当教員が学生をグループに分けて国家試験に関する指導を個別に行いました。

人を診る医師を地域のみなさまと共に育てる

一般市民参加型全人的医療教育プログラムの実施

全人的医療が行える医師の育成を目指して、
3つのプロジェクトを実施しました。

本プログラムは、文部科学省から特色のある優れた取組として選定されました。
「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム（医療人GP）」



PROJECT A

6年間一貫患者訪問実習

医学科の学生が
患者さまのご自宅を訪問する実習です。

県内の診療所を通じて紹介された患者さまを、第1学年と第4学年、第2学年と第5学年の学生がペアを組み訪問しました。

講義では学べないコミュニケーション力と、患者さま1人ひとりの背景を理解することの大切さを学ぶことを目的としています。

患者さまやその家族からは、学生の対応・介護支援への理解等について良好な評価が得られました。また、診療所の指導医からは学生のコミュニケーション力・実習に対する意欲などの点を高く評価されました。



約2ヶ月毎に担当の
患者さまのご自宅を訪問

Voice

- 教科書等で学ぶ典型的な病態ではない本当の病気の姿を垣間見た気がする。(第5学年男子)
- 学生相手ということで、患者さまが感じている医療への率直な思いを話してくださったような気がした。この貴重な機会を生かして、患者さまの立場から見た医療の問題点、期待されている点などを感じ取っていきたいと思う。(第5学年男子)
- 医師は患者さまの病気だけを診るのではなく、普段の生活の様子や家族との関係など様々なことに気をつけなければならないと感じた。(第2学年女子)



PROJECT B

全学年一般市民参加型面接医療実習

医学科の学生が模擬患者の医療面接を行う実習です。
模擬患者は一般市民の方にご協力いただいています。



医学教育を受けていく過程で薄れていくことが多い「一般市民」という視点を、学生が見失わないよう、医師に求められているものは何か、良医とは何かを一般市民から直接学ぶことができる実習となっています。

学 年	実 習 内 容	H18年度実施回数
第1学年	一般的な診察でのトークセッション	4回
第2学年	医学の話題でのトークセッション	5回
第3学年	簡単な医療面接（症状などを聞き取る）	7回
第4学年	医療面接（症状だけではなく患者さまの背景を聞き取る）	10回
第5学年	医療面接（怒っている、病気の自覚がない等の患者さまへの対応）	15回

実習はそれぞれの段階に応じて行われます。

PROJECT C

全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウム

学生が全人的医療の重要性をより理解した上で患者さま訪問実習へ臨めるよう、
医療関係者や一般市民の方々に広く参加を求め意見交換を行うシンポジウムを開催しました。

第1回
シンポジウム
2006.08.31

全人的医療に関する講演、
模擬患者・医学生の発表等が行われ、
129名の参加者がありました。

Voice

- 学生さんのお話に感動しました。この場にすばらしい医大生が育っている事を頼もしく思います。どうぞいつまでも今の気持ちを忘れないで下さい。(50代・女性)
- 今回、実際に全人的医療を実践されている先生方の言葉を聞いたことで、患者さまとどう接していっただろうか、ヒントを得られた感じがしました。(本学学生)

第2回
シンポジウム
2006.11.23

学生のこれまでの活動状況についての発表、
多岐に渡る講演が行われ、168名の
参加者がありました。

Voice

- 「コミュニケーションは覚えなくてもいい、身につけてくれ!」という先生のことは、年若いでも大事なことに感じました。(60代・女性)
- 教科書の勉強も大切ですが、それ以外のこともいかに大切か、他の学生にも知ってもらいたいと思いました。(本学学生)

第3回
シンポジウム
2007.07.08

学生が患者さま宅を訪問する場合の
コミュニケーションと笑いをテーマとした講演が行われ、
346名の参加者がありました。

Voice

- 医学教育にこういうことが重視されて、学生が学んでいることを知り、未来の明るい日本の医療が感じられ、うれしく思った。(50代・女性)
- 心温かい人間味のある医者を輩出していただきたいと願うばかりです。(30代・女性)



●第4回シンポジウムは2007.12.11開催予定です。

研究

RESEARCH
ACTIVITIES



個性輝く研究、医療の革新へ

「何でもできる大学」ではなく、「何かができる大学」を目指し、
本学の特徴を生かせる5項目の重点プロジェクトを推進しました。
また、バイオメディカル・イノベーションセンターの開設など、研究環境の充実を図るとともに、
近隣大学・自治体・民間企業等との交流を積極的に行いました。

特徴を生かせる研究を重点的に取り組む

重点プロジェクトの推進

サルを用いた 医学研究

鳥インフルエンザワクチンの開発、
再生医療への応用に向けて

- 人獣共通感染症に関する基礎研究連携事業（文部科学省）を推進
- カニクイザル・テラーメードES細胞を用いた
移植医療モデルシステムの構築
→科学研究費補助金基盤研究（B）を獲得



核磁気共鳴（MR） 医学

体への負担が
少ない治療（低侵襲治療）を
目指して

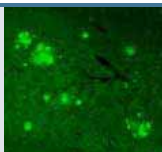
- MR画像による生体内標識幹細胞の無侵襲追跡技術と再生医療への応用
→科学研究費補助金基盤研究（S）を獲得
- 診断・治療のためのマイクロ体内ロボットの開発等
→都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省）に採択
- マイクロ波応用手術支援機器と手術システムの臨床応用
→独創的シーズ展開事業大学発ベンチャー創出推進（科学技術振興機構）に採択



神経難病研究

アルツハイマー病の
早期発見・治療を
目指して

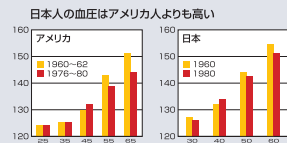
- アルツハイマー病の新規MR画像診断薬の開発
→科学技術振興機構育成研究に採択
- 長鎖アミロイドβ生成の調節メカニズム解明とその抑制法開発
→科学研究費補助金特定領域研究を獲得



生活習慣病医学

動脈硬化症・
メタボリックシンドローム
などの予防のために

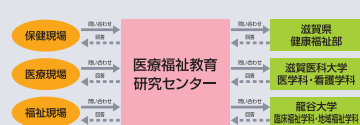
- 日米3集団の潜在性動脈硬化症危険因子に関する
国際疫学共同研究
→科学研究費補助金基盤研究（A）を獲得
- 日本人における血漿中Lp-PLA2濃度
およびLp-PLA2遺伝子多型と冠動脈疾患との
関連の検討：断面・症例対照研究を推進



地域医療支援研究

保健・医療・福祉・教育の
連携を促進

- 滋賀県からの委託を受け、
地域医療実態調査事業を実施



創造的な研究を推進するための環境を

研究環境の充実

バイオメディカル・ イノベーションセンターの開設

本学の研究成果を活用して産業界との
共同研究等による新規事業の創出支援
等のためのレンタルラボ・オフィス「バイ
オメディカル・イノベーションセンター」
を開設しました。全室の入居が決定し、
民間企業等と本学研究者との共同研究
プロジェクトがすでに始まっています。

ヒューマンサンプル リソース室の設置

実験実習支援センターの既存スペース
を改修し、ヒト試料を保存・管理するヒ
ューマンサンプルリソース室を設置しました。



動物実験に対する ライセンス制度の定着

我が国で最初の動物実験ライセンス制
度の定着と研究者の動物実験に対する
意識の改善に重点を置き、動物実験講習
会・試験等を計7回実施し、計84名に対
し資格認定を行いました。

次世代を担う研究プロジェクトの中から2つの研究を紹介

新たに特色になりうる創造的研究の推進

ゼロ・エミッションプロジェクト



外科学講座
谷 徹 教授

地域新規産業創造技術開発費補助事業（経済産業省）の支援を受け、草津電機（株）
と共同で、「非焼却型の医療廃棄物処理装置」を開発しました。

感染性の医療廃棄物（血液が付いたガーゼや注射器など）を従来のように焼却、
埋め立てせずに、水や二酸化炭素等に分解し無害化する装置で、重さ5kg分の廃
棄物を約30分で処理します。また、一切ゴミに触れることなく、ダンボールに入っ
たまま自動で装置に投入し粉碎することができます。



医療廃棄物
分解・無害化

これにより、CO₂排出量の削減、感染リスクの軽減、運搬・処理コストの軽減が可能になります。
今後は、全ての医療廃棄物を大学内で完全処理する「ゼロ・エミッション」を目指し、さらに研究・運動を進めていきます。

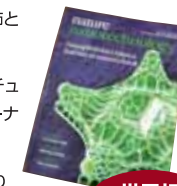
ナノ粒子の医学への応用



生命科学講座
小松 直樹 准教授

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援を受けて、「ナノ炭素化合物の修飾と
医療用画像診断素子への応用研究」を推進しました。

その成果の1つとして、髪の毛の1万分の1の細さで炭素が筒状につながったカーボンナノチ
ューブを右まきと左まきの構造に選別することに世界で初めて成功し、科学雑誌「ネイチャー
ナノテクノロジー」に発表しました。今後、電子部品材料など様々な応用が期待されています。



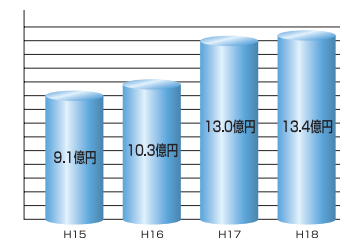
世界初
選別に成功

また、微量なダイヤモンド粒子を用いたがん造影剤の開発を行っています。この造影剤によ
り、通常は見えにくい小さながんを観察しやすくなります。がんの早期発見への応用を目指しています。

大学独自の研究資金が増えています

大学独自で獲得した研究資金

重点プロジェクトを中心として学外に認められるような研究成果、民間企業との共
同研究、寄附金等が増加したため、平成18年度において大学独自で獲得した研究
資金は総額13.4億円となりました。また、さらに研究成果を社会に還元できるよう、
産学官連携コーディネーターを配置しました。



診療

CLINICAL
ACTIVITIES



あたたかい最先端医療で安心と満足を

特定機能病院として専門的で質の高い医療を提供するとともに、地域中核病院として救急医療等により地域医療に貢献しました。また、新たに2件の先進医療を実践するなど、最先端の医療を推進しました。教育機関としても診療を通して良質な医療人の育成に努めました。

いざというとき頼れる病院です

質の高い医療の提供

- 難度の高い心臓血管外科症例が県内外の病院から搬送され、平成18年度手術件数は381件（前年度比+6.1%）となりました。

心拍動下冠動脈バイパス手術[※]を初めとする数多くの心臓手術に取り組んできました。その結果、過去5年間に実施した成人心臓手術件数が1,000件を突破しました。これは成人心臓手術の分野で全国トップレベルの実績です。

また、手術翌日に食事摂取や歩行が可能となる超早期回復管理を導入しています。患者さまの早期社会復帰をゴールとし、さらに高いクオリティを目指し、今後も万全の体制で診療を行ってまいります。

※心拍動下冠動脈バイパス手術：心臓を動かしたまま行う冠動脈バイパス手術です。他の臓器の機能低下、感染症、術後の麻痺などのリスクを軽減することができます。



Doctor's
Voice
外科学部長
(心臓血管外科)
浅井 徹 教授



- 平成18年度のカテーテルアブレーション（心臓焼灼術）[※]による難治性不整脈の治療件数は177件（前年度比+15.6%）で、全国トップレベルの実績数でした。



※先端に電極がついたカテーテルを使って、不整脈の原因となる異常な箇所を焼灼する治療法です。メスを使わないので、患者さまにかかる負担が軽減されます。

- 痛みを伴わないペインフリーな医療・より専門的な疼痛治療を目指し、ペインクリニック科を開設しました。ペインクリニック科の開設は国公立大学の病院では初めての試みです。

- 平成18年度の救急患者総数は11,504件で、そのうち三次救急（重篤な救急患者）搬送数が655件（前年度比+12.2%）となりました。

平成19年1月、救急車にて心肺停止状態の56才男性が本院に搬送されました。極めて重篤な患者さまで、到着時には深昏迷状態でした。心筋梗塞が疑われたため、循環器内科にて緊急カテーテル検査を行い、その結果を受け、ただちに心臓血管外科にてバイパス術が施行され、術後ICU管理となりました。

その後順調に回復され、2週間という異例の早さで、障害が残ることなく社会復帰できる状態での退院が実現しました。これも、全国トップレベルの実績を持つ心臓血管外科の技術、救急隊及び各科スタッフの連携による迅速な処置によるところだと考えます。



Doctor's
Voice
救急・集中治療
医学科長
江口 豊 教授

最先端の医療を患者さまに

先進医療の推進

先進医療とは、最新の医学水準であると厚生労働大臣から承認された医療で、高度な技術を持つ医療スタッフと十分な施設や設備を持つ医療機関だけで行われています。本院では、以下の8件を実施しています。

内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術

最小限の切開により内視鏡下で腫瘍を摘出します。

インプラント義歯（インプラント治療）

失ってしまった歯の代わりに人工の土台（インプラント体）を埋め込み、その上に人工の歯を作製し、欠損を回復させます。

抗がん剤感受性試験（CD-DST法）

患者さまから採取した腫瘍組織を用いて検査し、個々の患者さまに最適な抗がん剤の選択・投与を行います。本院では、消化器がん・乳がん・転移性肝がん・転移性肺がん・がん性胸膜炎が対象疾患です。

自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）

内痔核の上の直腸粘膜を切除し、痔核を正常な位置へと吊り上げ縮小させます。

³¹P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断

患者さまの負担の少ない方法で足病変の診断を早期かつ正確に行います。

樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法

がん組織に集中・殺傷するよう培養されたリンパ球を点滴により移入します。本院では、乳がん・肺がん・消化器がん等が対象疾患です。

強度変調放射線治療

がん放射線治療での新しい工夫で、副作用を増加することなくより強い放射線を腫瘍に照射させます。

腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術

骨粗鬆症等に対する骨セメント注入治療で、骨の強度を回復させます。

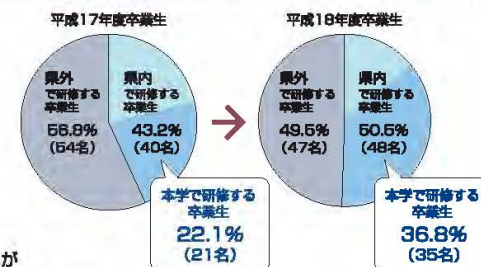
将来を担う良質な専門医療人を養成しています

人材養成

- 全国的に研修医の地域離れが問題となっていますが、本学では研修医獲得のために研修プログラムの充実、学内保育所の設置、研修医ルームの新設、学生への働きかけ強化等を実施した結果、本学研修プログラムで研修する卒業生は前年度に比べ大幅に増加しました。また、県内の病院で研修を行う卒業生も参加しました。

- 病院スタッフの専門資格取得を推進し、平成18年度は新たに27名が専門資格（専門看護師・糖尿病療養指導士・生殖医療コーディネーター等）を獲得しました。

- 平成18年度は、研修生・実習生（医師・看護師・薬剤師・理学療法士等）の受入件数が745名に達しました。



病院再開発

高度先進医療を提供する インテリジェント病院を目指して

開院から26年を超え建物・施設の老朽化が進み、また医療をめぐる環境が大きく変化したことから附属病院の再開発計画を実施することとなりました。平成19年8月には計画の第1段階である新(D)病棟が完成し、9月下旬に運用を開始しました。

〔病院再開発のコンセプト〕

■ 機能集約型病院

各診療科の専門家が集まり、議論を重ねた上で、最短で最適な医療が行われる体制を構築します。

■ 地域密着型病院

地域に密着した病院づくりをするため、救急医療体制を整備し、教育研修機能を充実させます。

■ 医療安全推進病院

安全対策、危機管理体制を強化し、患者さまの安全確保に万全を期します。

患者さまの満足度向上を目指し、実際に患者さまと接しているスタッフからのアイデアを随所にちりばめました。

新〔D〕病棟を徹底解剖



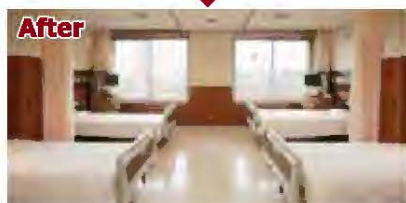
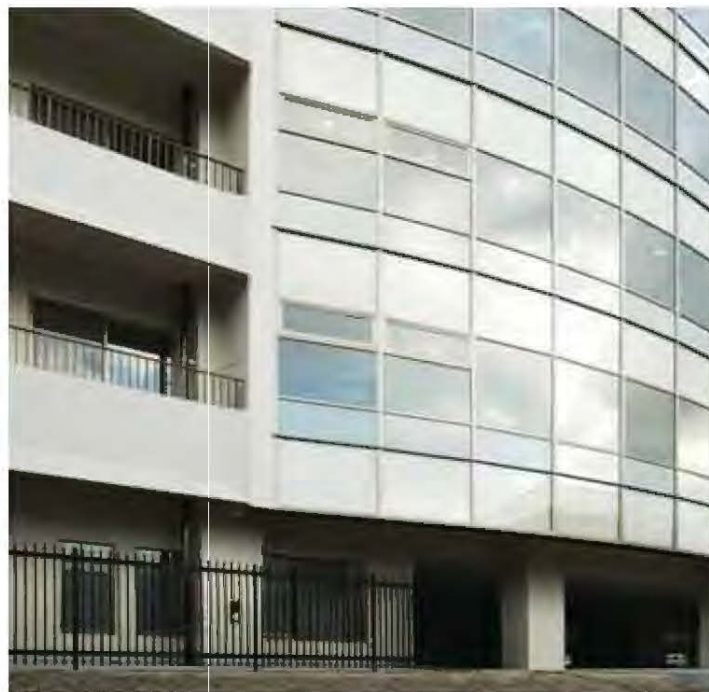
患者アメニティの向上

病院再開発委員会委員
藤野 みつ子 看護部長

- 患者さまのプライバシーがより確保されるよう、個室(1人部屋)を大幅に増やしました。既存病棟の個室率は10.8%ですが、新病棟では34.2%となります。また、6人部屋を解消し4人部屋としました。
- 各病室内にトイレ・手洗いを設置しました。
- 患者さまなどが気兼ねなく話しかけることができるよう、スタッフステーションをオープンカウンター方式としました。
- 各階フロアに患者食堂・面談室・家族控え室を用意しました。
- 遠く琵琶湖まで見渡せる最上階には、食堂とカフェを設置しました。



個室
大幅増



6人部屋
解消



オープン
カウンター



琵琶湖まで
見渡せる食堂



病院機能の向上・ 医療安全面への配慮

病院再開発委員会委員
松本 吉昭 教授

- 急性期の患者さまに迅速に対応できるよう、各階フロアに観察室を設置しました。
- 点滴残量の表示、トイレ介助間隔の予想などができるインテリジェントナースコールを設置しました。患者さまがコールボタンを押す前に予測し対応することも可能となります。
- 介助浴装置を2機設置しました。寝たきりの方でも安全、快適に入浴いただけます。
- 患者さまの生命維持に直接影響を及ぼす医療設備は安全を第一に考えて採用しました。



介助浴装置
2機設置



カンファレンス室
充実



教育・研究機能の 向上

病院再開発委員会委員
竹内 義博 教授

- 医師や看護師等が集まって症例や治療方針等の検討を行うカンファレンス室を増やしました。

〔建物概要〕

敷地面積：2,654m²
延べ床面積：13,715m²
構造・階数：鉄筋コンクリート6階建
工期：平成18年1月～平成19年8月
病床数：288床
(個室98室 4人部屋47室)

社会貢献・国際交流

COMMUNITY RELATIONS,
INTERNATIONAL EXCHANGE

本学の知的資源を地域社会等に還元するべく医科大学の特色を生かした魅力ある教育サービス(公開講座・出前授業・模擬講義等)を企画・実施しました。また、県内外の各機関との連携を強化するとともに、国際的に開かれた大学を目指し、国際交流事業を展開しました。

地域住民向けの教育サービスを展開

公開講座、出前授業、模擬講義



がん、認知症、メタボリックシンドロームなど、話題性のあるテーマで公開講座を企画しました。平成18年度の開催回数は13回、受講者数は1,223名にのぼりました。

Voice

- 専門家の説明には迫力がありました。(60代・男性)
- おはなしが非常に分かりやすく、今日からでも実践していこうと思います。(70代・男性)
- 平易すぎたので、もう少し専門性の高い話を希望します。(60代・男性)



平成19年6月22日には、ノーベル賞受賞者バリー・マーシャル教授を迎えて市民公開講座を開催し、地域住民の方々に世界的な業績を上げた研究者の講演を聴く機会を提供しました。



県内の小中高校生を対象に出前授業16回、模擬講義を3回実施しました。

Voice

出前授業に参加した小学生の声

- この授業を受けて、解剖学は人のためになるんだなと思いました。
- 少しだけ命のことが分かりました。もっとほかの体の仕組みなども知りたいです。
- 気持ちの悪いところもあったけど、体は複雑にできていて面白いなと思いました。

模擬講義に参加した中学生の声

- 21世紀の先端医療のお話はとても興味を持ちました。
- みなさんが教育に対して自信と誇りを持っておられることを強く感じました。

地域図書館とのコラボレーション

近江医学郷土資料のネット公開



附属図書館の所蔵する古医書・古文書の画像データベース化を進め、インターネット上で公開しました。これを記念して、滋賀県立図書館との共催で「湖国の医家―彦根藩医河村家日経書展」と題した展示会及び講演会を開催しました。

地域の各機関との連携を強化

学外との連携・協力関係を強化

大津市と相互協力協定を締結し、医学・看護学の教育研究活動を通じたまちづくり事業で相互協力していきます。

京都薬科大学との包括交流協定を締結し、より専門的な薬剤師の育成等で協力をしていきます。



立命館大学との医工連携研究「健康創造科学研究会」を発足させ、定期的に研究情報交換会を開催しました。

滋賀県や地元企業等と共同で、都市エリア産学官連携促進事業を推進しました。

教育・研究をグローバルに展開

国際交流の促進

ベトナムのチョー・ライ病院と新たに学術交流協定を結び、鳥インフルエンザの共同研究、看護師養成プログラム等の組織的な交流を推進しました。



学術交流協定に基づく交流活動における功績を称え、名誉博士2名(カナダ)、客員教授1名(アメリカ)の称号を授与し、授与式・講演会を開催しました。



JICA(国際協力機構)の要請で職員をアフリカへ派遣するとともに、アフリカから6名の臨床検査実習生を受け入れました。

評価結果

EVALUATION
RESULTS

文部科学省国立大学法人評価委員会による評価結果(平成18年度)

本学が提出した「業務の実績に関する報告書」に基づき、国立大学法人評価委員会が評価を行ったものです。業務運営、財務内容、自己点検・評価、その他(業務運営に関する重要事項)については5段階で、教育研究等については各大学の特色ある取組みが記述式で評価されます。本学の評価は以下のとおりとなりました。

5段階評価の結果

1.業務運営	3 (おおむね順調に進んでいる)
2.財務内容	3 (おおむね順調に進んでいる)
3.自己点検・評価	4 (順調に進んでいる)
4.その他(業務運営に関する重要事項)	4 (順調に進んでいる)

教育研究等についての評価(特色あるとして評価された取組)

- 国家試験合格者数増に取り組み、1年で目標値を上回る大幅な成果(医師:97.1%、看護師:98.4%、保健師:98.4%、助産師:100%)を収めた。
- 大学の特色を生かせる研究5項目を重点プロジェクトとして定め、学内外に公表するとともに、バイオメディカル・イノベーションセンターを設置するなどの研究環境の充実等の支援を行った結果、重点プロジェクトにおいて獲得した研究費(外資資金等)は対前年度比で16.6%増となっている。
- わが国で最初の動物実験ライセンス制度の定着と研究者の意識改善に重点を置き、動物実験講習会・試験・資格認定等を計7回実施し、84名に対し資格認定が行われた。
- 地域の中核医療機関として地域医療に貢献。特に救急医療が活性化し、三次救急(重篤な救急患者)搬送数は665件(対前年度比12.2%)に増加している。
- 先進医療は6件が進行中であり、不妊治療のカテーテルアブレーションや先進的心臓血管手術の件数増が図られているほか、低侵襲治療、MR医療、不妊治療等が推進されている。
- 県立図書館と共催で展示会・講演会「湖国の医家」を開催している。
- ベトナムのチョー・ライ病院との学術交流協定を新たに締結し、鳥インフルエンザの共同研究、看護師養成プログラム等の組織的・計画的な交流を推進。



バイオメディカル・イノベーションセンター



「湖国の医家」講演会



チョー・ライ病院との学術交流協定

今後の課題として指摘された事項

大学院改組のあり方については検討にとどまっております大学運営に反映させるに至っていない。



医療人育成教育研究センター等を中心に、大学院改組についての原案をまとめ、大学運営に反映させる。

利益相反ポリシーの策定に至っていない。



利益相反ポリシーを策定するとともに、その管理体制(知的財産本部)を整備する。